

## 平成13年度病害虫防除基準に採用した主な殺虫剤・殺菌剤

平成13年度岩手県病害虫防除基準に新規に採用した殺菌剤と殺虫剤の中から、代表的な農薬の平成12年度試験結果と使用上の留意点について紹介する。

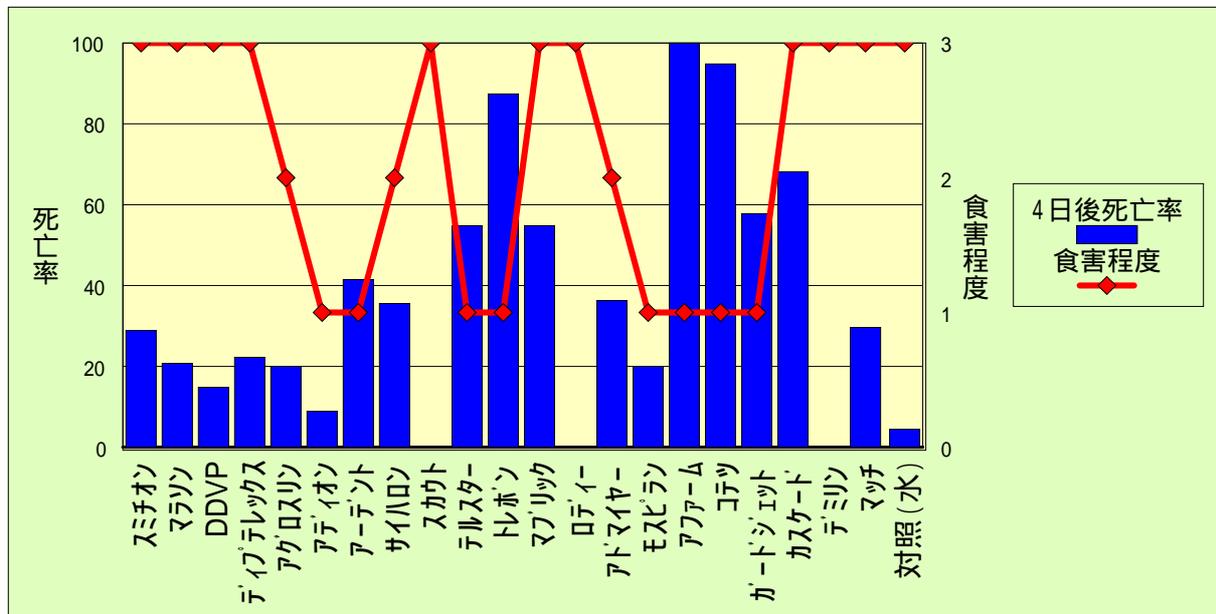


図1 ワタヘリクロノメイガ幼虫に対する各種殺虫剤の効果（食餌浸漬法）  
食害程度は給餌葉の被食面積が、  
1/3未満（少）・・・1、1/3～1/2（中）・・・2、1/2以上（多）・・・3 とした。

所定濃度に調整した薬液に15秒間浸漬したキュウリ葉を給餌して幼虫を飼育した。有機リン剤やほとんどのピレスロイド剤、さらにIGR剤は効果が劣ったが、**アフーム乳剤**（2,000倍）と**コテツフロアブル**（2,000倍）および**トレボン乳剤**（1,000倍）は効果が高かった。

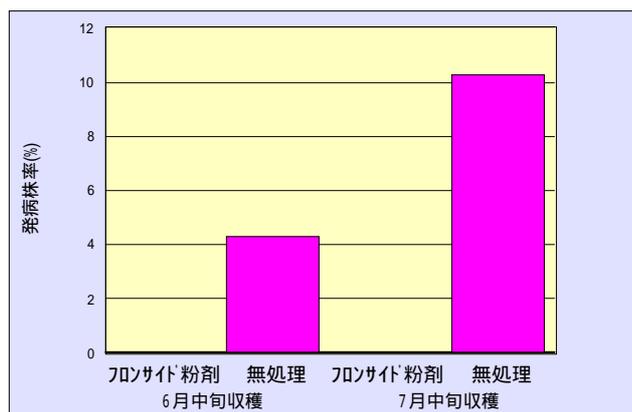


図2 レタスすそ枯病に対する防除効果

茎葉散布剤は、連続降雨の場合に散布できないが、フロンサイド粉剤（30kg/10a）の定植前施用であれば天候の影響を受けることなく防除が可能である。

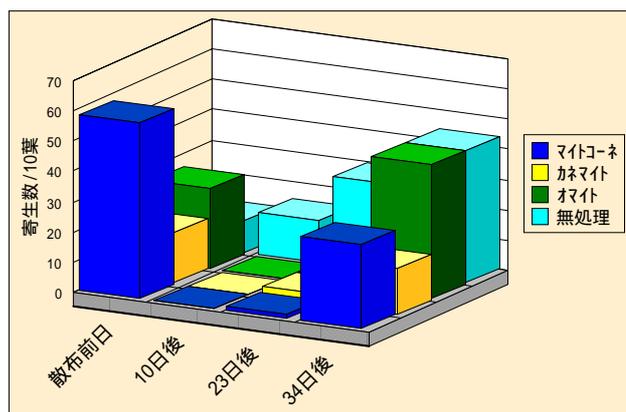


図3 ナミハダニに対する新規ダニ剤の効果

アリエティック水和剤と混用する場合には、凝集回避のためマイトコーネやカネマイトを先に溶かしてから混合する。